

ケアリング・フロンティア広尾プロジェクト

	名称	ねらい
フェスタ	リサーチフェスタ	日本赤十字看護大学と近隣の赤十字施設は、実習・教育などを通して、ネットワークをもっている。このネットワークをさらに発展させることを目指し、赤十字リサーチフェスタでは、関心領域が近い医療職者と研究者が協働研究を行うことを行うきっかけをつくることをねらいとする。昨年度に引き続き、日本赤十字社医療センターの看護研究発表会と合同開催とし、運営面を見直すとともに、幅広い参加者との交流および、研究活動の推進を目指す。
	クロー・ルージュ祭 オープンホスピタル	日赤から発信するイベントを通して地域貢献を図ることを目的とする。地域との連携を図りながら、看護の強みを活かした地域貢献の在り方を模索していく。
実践	"最期までその人らしく生きることを支えるケア"プロジェクト	<p>活動の目的は、地域に暮らす高齢者が最期まで自分らしく生きることを支えるために、家族の思いも踏まえながら、フォーマル、インフォーマルの関係性をもとに広尾地区という地域の中でのソーシャル・サポート・ネットワークを構築していく。各プログラムの目的は下記のとおりである。</p> <p>1. 高齢者看護コース: 最期までその人らしく生きることを支えるケア: 高齢者が最期までその人らしく生きることを支えるケアについて理解を深め、病院、施設、地域、在宅の連携のもと職種を超えた支援に活かすことを目的とする。</p> <p>2. コンソーシアム広尾: 最期まで自分らしく生きるとは: 参加者が様々な人々との交流を通して、最期まで自分らしく生きるとは何か、また家族として、看護師等の支援をする側として、どのように支えていくことが必要なかを考える機会を提供することを目的とする。</p>
	広尾地域防災プロジェクト HiCaDip(Hiroo Campus Disaster Prevention) Project	<p>災害発生時に広尾キャンパス内の各組織、および共同体として、社会に期待される役割を果たすための態勢づくりを支援する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広尾キャンパス内における各施設の自助・共助の強化 2. 医療救護: 救命・救急 3. 災害時要援護者の安全確保 4. 帰宅困難者の保護 5. 防災・減災に強い組織づくりと人材育成 <p>各施設の自助、共助の役割を明確にし、さらに三施設の防災上の連携・協働を構築する防災態勢をつくりあげていくことを支援する。</p>
	UNICEF/WHO 母乳育児支援 20時間コース基礎セミナー	<p>赤ちゃんにやさしい病院運動(Baby-Friendly Hospital Initiative)における母乳育児を保護・支援・推進できる病院スタッフの知識、技術、態度を育成する。</p> <p>母親と赤ちゃんにやさしいケアを提供できるためには、スタッフ同士がやさしくサポートし合える関係を体験し、築くことが重要である。会においてはスタッフ同士のコミュニケーション能力やエモーショナルサポート能力、ピアサポート能力も育成する。</p>

ケアリング・フロンティア広尾プロジェクト

	名称	ねらい
研究	小児看護研究会 CandY (Children and You)	子どもと家族にかかわる看護師やその他の専門職者が、実際に臨床場面で対応に困っていること、援助の方向性について悩んでいることについて、事例を通して考えたり、小児看護に関連したテーマについてディスカッションしたりすることを目的に、小児看護研究会を行っている。
	精神科看護事例研究会	多くの人と事例を検討することを通して、多角的な視点が得られ、それまでは見えていなかった新たな面が発見され、かかわりの糸口を作る
	TRC研究会 (Total Renal Care)	個々の患者に最適な全人的総合的腎不全医療(包括的腎不全医療: Total Renal Care: TRC)の推進・普及を目指す。「学は分野横断的」、「実践は地域一体型」という理念のもとに、学と実践の有機的交流を通じた、新たな腎不全医療モデルの創造を目的とする。
	セルフケア能力を高める支援の検討会 (SCAQ研究会)	入院—外来通院—在宅療養を視野に入れ、一人ひとりの生活を視野に入れたセルフケア支援を展開することをめざす。志を同じくする仲間を募り、広尾地区の赤十字から、セルフケア支援を世の中に向けて発信していくことを目的とする。
	シームレスな看護師教育モデルの検討: しなやかな葦のような強いナースを育てる会	教育現場と臨床が相互に協力しあい、基礎教育から継続教育に至るまでのシームレスな教育モデルを検討する。骨太のナース、しなやかな葦のような強いナースを育むことをめざす。このことは、質の高いケアを提供するナースの確保と離職率の低下につながる。